

松山 和世: 2000 年度「藻類談話会」参加報告

今年度の「藻類談話会」は大阪の関西総合環境センタービル会議室をご厚意により会場としてお貸しいただき、11月11日(土)の13時から開催されました。これまで私は気になりながら参加できないでいましたが、中部地区に移ったのをきっかけに今年は思い切って参加することができました。今回の参加者は52名で、四国や新潟など遠方からの参加者もあったとのこと。講演後に若手研究者に発表の場を与えて下さるとのこと、このような恵まれた機会に私も発表をしたいと思ったのですが、対象は院生ぐらまでのようにも思えたので、今回は控えることにしました。

講演と研究発表の演者(敬称略)と題目は次のとおりでした。

講演

寺田竜太(高知海深研): 海洋深層水を用いた大型藻類の培養について—現状と課題

今井一郎(京大院・農): 微細藻類と海洋細菌の関係

本多大輔(甲南大・理): 高度不飽和脂肪酸を蓄積する海生“菌”ラビリンチュラ類の系統分類

三村徹朗(奈良女大・理): 車軸藻のリン酸代謝—生体膜輸送と生理作用

研究発表

久保雄昭・松田吉弘(神大院・自然科学): 緑藻クラミドモナスにおける配偶子細胞壁溶解酵素, ガミートライシンファミリーの解析—C末端共通ドメインをもつ二つのメタロプロテアーゼ遺伝子の転写制御

Altamirano, Maria(神大・内海域): Effects of ultraviolet radiation on the physiology of marine macroalgae

春の学会で発表が二会場で行われるようになって以来、興味を持ちながらも聴けない発表が増えていますが、本会は私にとっては聴くチャンスが少なくなっていた話題のお話を伺うことができ、大変有意義でし



研究発表風景



懇親会でのひとこま

た。また学会発表よりも長い講演時間のおかげで、ある程度まとまってお話を伺うことができたこともよかったですと思います。

寺田さんのお話では直前にあった海洋深層水利用研究会全国集会でも聴くことができなかった大型藻類を用いての様々な深層水の研究について伺うことができました。今井先生のお話は中心目珪藻 *Coscinodiscus milesii* の長年に渡る貴重な野外のデータから得られた興味深い結果やこれまで独自の営みと考えられていた生活環にまで海生細菌が大きく関与しているという驚くべきお話など盛りだくさんの内容でした。本多先生のお話では丁寧なイントロのおかげで、私にとっては遠い存在だったラビリンチュラ類を大分身近に感じることができました。三村先生のお話では「藻類を使ってそんな実験ができるのか!」と驚き、藻類の違った一面を知ることができました。研究発表は、最新の研究の成果が発表され、とても刺激的なものでした。その後に行われた懇親会でも、あちこちで活発な意見交換がなされ、これまでお話したことのなかった方々とお話することができ、新たな世界が広がったように思います。お忙しい中、この会のお世話を下さった方々に心から感謝いたします。来年の会場は甲南大で希望者は宿泊付きと伺いました。忙しい日々を過ごしながらも、思い切って参加できれば大きな収穫が得られるのではないかと思います。

今回念願の藻類談話会に参加して、初めてお会いする方も半分ぐらいはいらっしやうに感じられ、藻類を研究材料として扱われている方の中には、藻類学会に入られていない方もまだまだいらっしやることを知りました。そういった方々とも今後は藻類学会でもお目にかかれるようになることを願っています。

(東海大学海洋研究所先端技術センター)